

＝ 前を見据え ＝

なんと早いことか、今年も、あと半月。毎度のことながら年の瀬は気ぜわしい。今年もいろんなことがあった。年明けからのAP19 春季取り組み、それに並行した統一地方選、JAMの仲間とともに臨んだ夏の参議院議員選挙。そして、新天皇の即位にともない令和へと改元。日本チームの活躍に酔いしれたラグビーワールドカップ。その一方では、台風・豪雨の大規模自然災害の発生、働く者・生活者の実感得ない景気指標、足もとでは米中貿易摩擦や国際社会の緊迫感が、ものづくり産業へ暗い影を落としている。

そんな状況の中で、次の選挙しか見ていない一部の政治家の動きに情けなささえ感じる。自然災害の復旧・復興、国土強靱化に向けた予算編成、揺れ動く国際情勢の中で日本の行く末を決める立法府には、やるべきことは数多(あまた)あるはず。何やってんの…なのである。

そんな悲喜こもごもの思いの中で年末を迎える。振りかえれば、反省とともに次に生かさなければならぬ出来事も多かったが、前に進んでいくために少しうれしかった話を綴り、今年を締めくくりたい。

9月の定期大会終了後、より多くの仲間の皆さんと課題認識の共有化を目的に、ハードな移動もあったが多くの大会に出席させていただいた。

京都から飛んだ青森では、非専従体制での苦労話や若い役員たちが先輩役員の教を熱いまなざしで聞く姿に見入り、最後の大会対応となった徳島では、労使関係で抱える悩みや、安全活動と労働組合の取り組み、組合員といかにしてつながりをもっていかを、名物？肉そばと焼酎を片手に激論する姿が心に残っている。

そして、この全国行脚のハイライトは長崎。昼ご飯は、ちゃんぽんと決めていた。県本部の大会は13時開会。時計の針は12時少し前、頃合いのお店を見つけた。少し薄汚れた感じのちゃんぽん屋、お店の名前は三角亭。中には、三つのテーブルと、こあがり座卓が三つ。80歳前後の腰の曲がったおばあちゃんと厨房には息子さんであろう二人で切り盛りをしている様子。他に、お客さんはご夫婦らしきお二人と私と同年代のおじさん一人。着座すると、腰の曲がったおばあちゃんがお冷をもって近づいてきたが、なんとも足がおぼつかない。様子を見ていた息子さんが厨房から出てきて抱えるようにおばあちゃんを座敷に座らせ、代わりにお冷をおき注文を聞く、もちろん、ちゃんぽん。ところが、実質1人で切り盛りしているからか、なかなか出来上がらない。すでに25分経過。ちゃんぽん一つ、多分普通なら「まだな！」という場面だが、腰も曲がり足もおぼつかないおばあちゃんが何か手助けをと思う母心、片や母をいたわる息子さんの姿を見れば言葉は出ない。代金を置いて、もう立とうと思ったときに、「大変お待たせしました」と息子さんの声、28分経過。待った甲斐があった、なんともうまか～、ちゃんぽん。舌を少々焼きながらいただいたが、心も体も温まる美味を堪能、大会開始10分前に会場に到着した。互いを思う心、今は亡き母に、もう少し…と悔やみつつ、心温まる場面に感謝であった。

相手を思う気持ちといえ、ご安全に。今年も尊い仲間の命を失った。被災された皆さんにも家族や仲間がいる。ベテランには年老いたご両親がいるかもしれない、若い方にはご両親をはじめ愛しい人が、そしてかわいい幼子もいるだろう。別れの言葉も言えず忽然と消えた命、逝く人も残された側も、言葉にはできない無念と悲しさ。どんなに時が移ろうと、私たちは忘れてはならない。まずは、この年末年始の仲間の安全と健康を心から念じる。

年が明ければ令和2年。新たな時代に自らが光明を切り開く覚悟で臨んでいきたい。

良いお年を…。

ご安全に

2019年12月12日

日本基幹産業労働組合連合会
中央執行委員長 神田 健一